

日本工学院八王子専門学校		開講年度	2019年度（平成31年度）	科目名	卒業制作
科目基礎情報					
開設学科	建築学科	コース名		開設期	後期
対象年次	4年次	科目区分	必修	時間数	180時間
単位数	6単位	授業形態	実習		
教科書/教材					
担当教員情報					
担当教員	小林猛、根本毅、安田智紀、石川典貴、渋谷浩夫、吉野百合江、高田博章、本田茂樹、小谷野直幸		実務経験の有無・職種	有・建築設計	
学習目的					
<p>これまで学んできた建築学習の集大成として挑み、各自の背景や、経験も導入し未来へ向けた社会的提案を前提に、調査や検討を繰り返し重ね、議論するのではなく、より深度のある作品制作に取り組むことを基本的姿勢とする。多様な現代の建築業界で、各自が自身の目的と意義を見出し各々の立ち位置を見つけ出す力を養う必要がある。卒業制作を通して総合的な能力向上を図ることや、柔軟な応用力が求められ、単に技術の向上を求めるのではなく個々に自身の核を見い出すことを学習の目的とする。</p>					
<p>建築を軸に社会的課題を発見し、独自の解決方法を提示、検証出来る為に、次の3点を到達目標とする。</p> <p>①綿密で的確な調査、フィールドワークを実施し、独自の視点で課題を発見することができる。</p> <p>②検討や検証を幾度も重ね、より良い提案を模索し続けることができる。</p> <p>③第三者へ明確に自身の意図が伝わる、プレゼンテーションが行うことができる。</p>					
教育方法等					
授業概要	スタジオ制を採用し、各スタジオ担当教員の支持の元、段階的に質を向上させながら制作を進めていく。中間時には発表を行う事で、より客観的視点を認識した上で更に強度のある作品制作に向き合っていく。作品制作は第三者に見せる事、伝える事を前提に制作し、総合的に表現をおこなう。				
注意点	取り組んでいる事の目的を理解し、高い習得意識を維持すること。欠席しないことを心掛け、授業時間数4分の3以上出席しない者は、単位を認定しない。日本工学院 授業心得を守ること。				
評価方法	種別	割合	備考		
	成果物	70%	成果物及びプレゼンテーションを総合的に判断し評価する		
	プロセス	20%	段階的に考察がされているか中間発表時において総合的に評価する		
	平常点	10%	積極的な授業参加度、授業態度によって評価する		
授業計画（1回～15回）					
回	授業内容	各回の到達目標			
1回	テーマの決定	卒業制作で取り組むべきテーマ決定をすることができる。			
2回	サーベいの検証	進めているサーベい内容の確認から、方向性を考察することができる。			
3回	サーベいの再展開	これまでの内容を検証し、より深いサーベいを実施することができる。			
4回	基本プログラム決定	プロジェクトにおける基本的骨格を設定し、展開を考察することができる。			
5回	コンセプト取りまとめ	コンセプト設定を行い、今後の方向性を設定することができる。			
6回	中間チェック及び発表	取組内容をアウトプットし、今後の課題を確認することができる。			
7回	初期全体案検討①	中間チェックを受け、全体案を取りまとめる事ができる。			
8回	初期全体案検討②	初期案を検証スタディを重ねることができる。			
9回	修正案検討①	修正案を取りまとめ、全体を再確認することができる。			
10回	修正案検討②	検証スタディを重ね、制作案を決定することができる。			
11回	制作①	制作物を決定し、制作スケジュールを立てる事ができる。			
12回	制作②	周辺環境モデルを作成することができる。			
13回	制作③	スケジュール調整が出来、最善の制作物を制作することができる。			
14回	制作④	提案内容が伝わる作品を制作することができる。			
15回	講習会	自身の案を明確に伝える事ができると共に、他者の作品を批判的に捉えることができる。			